

スコアシート 実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					3.3
Q1 室内環境			0.40	-	3.2
1 音環境		3.0	0.15	3.2	1.00
1.1 室内騒音レベル	<宿泊>35<騒音レベル≤40	3.0	0.67	4.0	0.40
1.2 遮音		-	-	3.6	0.40
1 開口部遮音性能	<宿泊>T-2	-	-	5.0	0.30
2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20
1.3 吸音	-	3.0	0.33	1.0	0.20
2 温熱環境		2.5	0.35	3.2	1.00
2.1 室温制御		3.3	0.50	3.5	0.50
1 室温	<宿泊>冬期23℃夏期24℃を実現するための設備容量を確保	3.0	0.38	4.0	0.57
2 外皮性能	-	3.0	0.25	3.0	0.43
3 ゾーン別制御性	<共用>冷房・暖房の選択が可能な空調システム	4.0	0.38	-	-
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	3.0	0.20
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	3.0	0.30
3 光・視環境		2.7	0.25	3.3	1.00
3.1 昼光利用		1.8	0.43	4.2	0.30
1 昼光率	<宿泊>昼光率1.25%以上	1.0	0.60	5.0	0.60
2 方位別開口	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.40
3.2 グレア対策		-	-	4.0	0.30
1 昼光制御	<宿泊>カーテンと庇でグレアを制御	-	-	4.0	1.00
3.3 照度	-	1.0	0.21	1.0	0.15
3.4 照明制御	<共用>リモコン等で細かい照明制御ができる。	5.0	0.36	3.0	0.25
4 空気質環境		3.8	0.25	4.0	1.00
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63
1 化学汚染物質	<共用><宿泊>建築材料は、告示対象外の建材及びJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00
4.2 換気		4.0	0.30	4.0	0.38
1 換気量	<共用>35㎡/h人以上<宿泊>30㎡/h人以上	5.0	0.50	4.0	0.33
2 自然換気性能	<宿泊>自然換気有効面積が居室面積の1/10以上	-	-	5.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	3.0	0.33
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	-	3.0	1.00	-	-
Q2 サービス性能		-	0.30	-	3.2
1 機能性		2.5	0.40	4.0	1.00
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60
1 広さ・収納性	<宿泊>客室の床面積40㎡以上	-	-	5.0	0.50
2 高度情報通信設備対応	<宿泊>Gbitクラスのプロードバントが利用可能な環境を整備	-	-	5.0	0.50
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40
1 広さ感・景観	<宿泊>天井高2.5m以上	-	-	4.0	0.50
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-
3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保	延床面積に対して0.2%以上の清掃用具庫・管理倉庫を設置している	4.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3相当	5.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	客室:床フローリングt7(二重床H125)、壁木値付化粧不燃板t6、天井EP(PBt12.5+9.5)	5.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:PEP(B)、排水:VP(B)、給湯:PEP(B)、Eの使用なし	5.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-
2.4 信頼性		4.0	0.20	-	-
1 空調・換気設備	重要室の非常時空調運転の採用等	4.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備	汚水槽の設置、受水槽の蛇口設置等	4.0	0.20	-	-
3 電気設備	非常用発電設備及び無停電電源設備の設置等	4.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備	ネットワーク機器用の無停電装置の設置等	4.0	0.20	-	-

3	対応性・更新性			3.2	0.30	2.7	1.00	2.9	
	3.1 空間のゆとり			-	-	2.4	0.50		
		1 階高のゆとり	—		-	-	2.0	0.60	
		2 空間の形状・自由さ	—		-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	—		-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-		
		1 空調配管の更新性	—		3.0	0.20	-	-	
		2 給排水管の更新性	—		3.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	—		3.0	0.10	-	-	
		4 通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる		5.0	0.10	-	-	
		5 設備機器の更新性	—		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	—		3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	3.7	
1 生物環境の保全と創出	既存植物の保存や自生種の採用による生物環境の創出		4.0	0.30	-	-	4.0		
2 まちなみ・景観への配慮	既存の自然環境等を保存		4.0	0.40	-	-	4.0		
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—		3.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上	—		3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.6		
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	4.4		
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.71		5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用	—		3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.64		5.0	0.50	-	-	5.0		
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0		
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-			
	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-	-			
	4.2 運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-			
	集合住宅の評価		-	-	-	-			
	4.1 モニタリング	—	-	-	-	-			
	4.2 運用管理体制	—	-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	2.9		
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2		
	1.1 節水	—	1.0	0.40	-	-			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-			
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-			
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1		
	2.1 材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と内装材は容易に分離可能	4.0	0.20	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-			
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.3	0.70	-	-			
	1 消火剤	不活性ガス消火設備を採用	4.0	0.33	-	-			
	2 発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.33	-	-			
	3 冷媒	—	3.0	0.33	-	-			
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.3		
1 地球温暖化への配慮	CO2排出率:70%		4.2	0.33	-	-	4.2		
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7		
	2.1 大気汚染防止	—	1.0	0.25	-	-			
	2.2 温熱環境悪化の改善	見附面積比:40%未満、隣棟間隔指標:0.5以上	4.0	0.50	-	-			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.25	-	-			
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-			
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-			
	3 交通負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-			
	4 廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1		
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-			
	1 騒音	—	3.0	0.50	-	-			
	2 振動	—	3.0	0.50	-	-			
	3 悪臭	—	-	-	-	-			
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-			
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-			
	2 砂塵の抑制	—	-	-	-	-			
	3 日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-			
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-			
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明は、発光部分及び照射範囲を点滅させない方式	4.0	0.70	-	-			
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-			

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	1.0	-	-	○	-	-	-	○	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		-	○	-	-	○	-	-	○	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		○	○	○			○	○	-	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0		-	-	-	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	-	-	○	○	-	-	○						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	-	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0		-	2.0	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	1.0	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	2.0	3.0	3.0	-	-	-	-					
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	-	2.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-										
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	13.0		1.0	-	3.0	3.0	3.0	-	-	2.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC	ηAH
昼光率	3.3%			
自然換気有効開口面積率				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	40.0㎡	ツイン	40.0㎡
コンセント容量	-	VA/㎡							
天井高	2.65	m							
リフレッシュスペース	-	レストスペース	-						
想定耐用年数	-	年							
想定必要間隔	-	年							
想定必要間隔	20	年							
想定必要間隔	-	年							
階高	-	m							
壁長さ比率	-								
床荷重	-	N/m2							

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指数		104%		建物緑化指数		0%															
空地率		65%		水平投影面積率		33%		地表面対策面積率		84%		舗装面積率		30%							
BPI/BPI _m		0.71		断熱等性能等級		対象外 相当															
自然エネルギー直接利用量		-		MJ/年㎡		採光を満たす教室数		-		採光を満たす住戸数		-									
						通風を満たす教室数		-		通風を満たす住戸数		-									
BPI/BPI _m		非住宅		0.64		住宅		-		太陽光		-		太陽熱等		-		蓄電池		-	
雨水利用率		-																			
特定調達品目		-		エコマーク商品		-		自治体指定の特定品目等		-											
使用比率		-																			
オゾン層破壊係数(ODP)		-		地球温暖化係数(GWP)		-															
オゾン層破壊係数(ODP)		-		地球温暖化係数(GWP)		-															
オゾン層破壊係数(ODP)		-		地球温暖化係数(GWP)		-															
見付面積比		35%		隣棟間隔指標R _w		1.00															
地表面対策面積率		134.0%		屋根面対策面積率		0.0%		外壁面対策面積率		0.0%											
見付面積S _b		226㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅W _s		54.429 m		基準高さH _b		11.7 m											
緑地		663㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡			